

聖学院大学総合研究所 競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会主催
 2019年度競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会
 発題者：井上知洋・平修久



発題者 左：平修久教授 右：井上知洋准教授

2019年7月10日（水）、聖学院大学総合研究所による「2019年度 競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会」が教授会室において開催された。同研究会代表の平修久副学長・政治経済学科教授の趣旨説明の後、井上知洋人文学部児童学科准教授、平修久教授が科学研究費受給の体験を話し、続いて横山寿世理研究倫理委員長が個人情報情報の匿名化について説明を行った。また、菊池美紀研究支援交流・出版会事務課長から研究計画作成の配慮点について説明があった。参加者は26名（講演者3名含む）であった。

冒頭の趣旨説明の中で、最近の科研費の動向の説明があった。科学研究費の予算額は微増で推移し、新規応募件数も採択件数も増加傾向にある。しかしながら、新規採択率は上下動を繰り返し、2017年度から18年度にかけて、基盤A・B・Cおよび若手研究のいずれも上昇した。中でも、若手研究は30.7%から40.0%へと大幅に増加した。本学の2019年度の科研費受給は新規4名、継続6名で、研究分担者が新規4名、継続7名である。

井上准教授は、自身の研究分野の説明の後、科研費の受給に至った背景として、学会賞の受賞、研究業績の増加、研究のテーマと方法の変更、国際共同研究の開始、研究協力者の増加、申請書の書き方の変更があったと報告した。そして、科研費申請書の作成に際しては、単語や文節の途中で

改行しないことなどにより審査者の精神的負担・労力を減らすとともに、研究成果を確実に出すという思いを伝える配慮を行っている」と説明した。

平教授は、過去の科研費申請の不採択・採択の要因や経費の見積りのミスについて述べた後、テーマの絞り込み、調査のスケジュールや内容の具体化および研究業績を活用した実施可能性の主張などの申請書の書き方の工夫を説明した。

横山准教授は、研究倫理審査の概略を説明した後、審査においてよくある修正事項である個人情報の匿名化に関して、個人を対象にした分析データと個人を識別できる対応表の取扱いを説明した。

菊池課長からは、申請書作成の注意事項と科研費受給のための動画研修の説明があった。

以上の報告や説明の後、海外特別研究員や研究倫理などに関して、熱心な質疑応答がなされた。引き続き、科研費をはじめとする外部研究資金への積極的な申請と、活発な研究活動が全学的に展開されることを期待したい。

（文責：平 修久 [たいら・のぶひさ] 聖学院大学副学長、政治経済学科教授）

本 書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

ベイズの誓い

——ベイズ統計学はAIの夢を見る

松原 望 著

2018年6月20日発行
3,200円（税別）

AIの元祖・ベイズ統計学の基礎から最新の応用までを学ぶ。

TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324
 URL: <https://www.seigyo-press.jp>